山協ニュース

一般社団法人岩手県山岳協会
第209号
平成31年4月1日発行
http://long-distance.jp/sangaku/

国際規格の県営ボルダリング施設新設整備決定

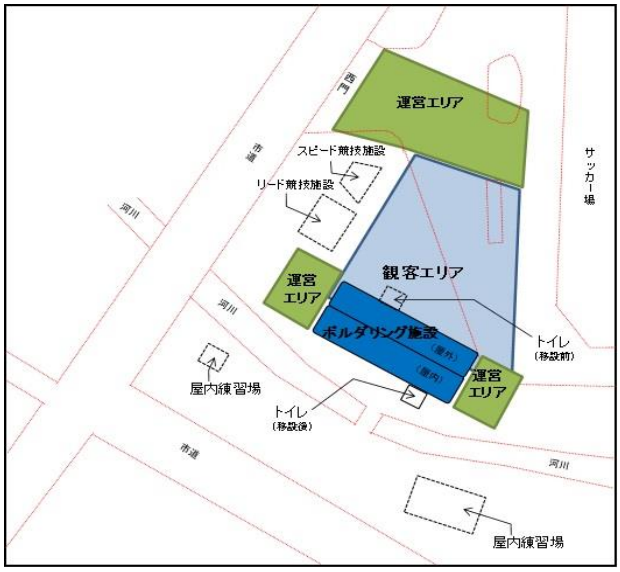
2月に入り、ビックなニュースが入ってきました。

当協会が3年前から岩手県、盛岡市に要望していました国際大会仕様の本格的なボルダリング施設整備が岩手県の配慮で決まりました。

岩手県が、地方創生拠点整備事業の一環として、国際規格のボルダリング施設整備を総額3億9千万円の予算規模で決定したという朗報です。

県営運動公園には、平成26年に可変式リード施設、平成30年には我が国有数の屋根つきスピード施設が完成しており、既存のボルダリング施設も平成26年に大リニューアルを行っており、今回の国際規格のボルダリング施設整備で、全国初の本格的なリード、スピード、ボルダリング施設が整備され名実ともに我が国を代表するスポーツクライミングの拠点としての施設が整うこととなります。

整備されるボルダリング施設は、長さ40m、巾8mの大きな施設で、国際大会を予定しての屋外ステージと屋内ボルダリング施設を備えるほか室内オープンスペースも設けられます。



この施設は、来年4月27日からのアジア選手権大会の会場となります。今後、ワールトカップや国際大会の開催等活用が期待されます。

協会では、これまでリードジャパンカップ、第1回コンバインドジャパンカップをはじめ希望郷いわて岩手国体の開催等全国規模の大会運営も経験済で、今後も継続的に全国大会や国際大会の開催を通じてスポーツクライミング普及を図っていきます。もちろん、選手育成強化とスポーツクライミングの普及のため活用させて頂きながら国体入賞、日本代表選手の発掘養成等に活用していきます。来年3月の完成の予定です。

令和元年度事業計画及び予算決定

一般社団法人移行後初めてとなる通年での令和元年度事業計画、予算が3月13日開催の理事会で決定しました。

これまで定時総会での決定事項でしたが定款第6条の規定により理事会決議となったのを受けての決定です。

主な内容について報告します。

※　基本方針

法人化移行2年目にあたり、引き続き一般社団法人として組織体制の整備、財政基盤の確立、予算執行の適正化を進め、本県における登山、山岳スポーツ及びスポーツクライミングの統括団体として使命を果たしていくこと。岩手県、関係市町並びに関係団体のご指導のもとと加盟団体と一体となって登山、山岳スポーツ及びスポーツクライミングの普及振興を通じて県民の心身の健康及びスポーツ振興に資するため、次の基本方針のもと事業展開に努める。

○　安全登山の啓発

国民の祝日「山の日」の制定の意義の啓発に努めること。引き続き遭難事故防止、生涯スポーツとしての安全で楽しい登山の普及のため、加盟団体の活性化支援。

一般登山者の安全登山を推進するため夏山リーダー養成講習会を開催する。

○　組織強化と加盟団体との交流促進

少子化、高齢化時代という時代背景の中、山岳団体も組織の活性化対策は避けて通れない喫緊の課題となっている。このことは加盟団体の共通の課題であり、具体的対策として加盟団体間の交流、協会と加盟団体との情報の共有、各種事業への参加への働きかけに努める。

○スポーツクライミングの普及と指導者養成

スポーツクライミングが東京オリンピック種目として注目されているなか、各種大会の運営スタッフ及びスポーツクライミング指導者の養成が求められている。

本県は、国内有数のスポーツクライミング施設を有しており、これらの施設を活用しスポーツクライミングの国内拠点として選手強化、指導者養成、大会運営体制の確立に努める。

○自然保護活動の推進

地球温暖化や突発的な火山災害、局地的豪雨等山岳を取り巻く環境は、大きく変化している。このような中、山岳団体として自然愛護に努めるとともに登山マナーの啓発、非常時避難啓発、自然保護活動に努める。

○スポーツクライミングアジア選手権 2020 大会開催に向けての準備

来年 4 月開催のスポーツクライミングアジア選手権 2020 大会の成功に向けて、(公社)日本山岳・スポーツクライミング協会、岩手県、盛岡市と連携のもとに取り組んでいく。

○新設ボルダリング競技壁を核とした施設活用策の構築

新設のボルダリング競技壁（competition wall）の設計理念の集約と、オープンスタジアムとしての施設全体の活用方策（大会誘致・合宿・強化）を総合的に検討する。そして本県施設群の強みを生かした国際的な若年層交流拠点に向けた戦略を関係当局と練り、地域創生の拠点とする。特に東京五輪来訪の国際チームから「盛岡でキャンプをしたい！」(camp in Morioka) と注目されるよう、施設整備と広報戦略を練っていく。

※　各部の事業

ア　総務部門

・日山協、他団体との連絡調整、加盟団体及び高体連登山専門部との連携強化

・理事会、理事・スタッフ合同会議、部会、加盟団体長及び事務局長会議の開催、名誉会員、顧問会議、新年交賀会等の開催を通じて協会事業への理解を深めてもらうとともに、意見提言をお聞きし、円滑な協会運営に努める。

・広報活動及び情報発信、ホームページの充実、事業周知、大会結果等の掲載等

・山協ニュースの発行　　209 号～214 号　250 部

・財政基盤の確立のため、協賛金、事業収入の確保。

・2020 東京オリンピックスポーツクライミング事前合宿の招致活動

イ　指導、研修事業

・加盟団体への技術講習、指導員研修の充実

・残雪期講習会兼指導員研修会　：5 月 18 日（土）19 日（日）：秋田駒ヶ岳 、講習内容：氷雪登山技術、歩行技術（アイゼン）、ロープワーク等

・沢登り講習会兼指導員研修会　：8 月 4 日（日）：南白沢（葛根田）講習内容：沢登り技術、読図、ロープワーク、支点構築等

・岩登り講習会兼指導員研修会　：8 月 25 日（日）　：展勝地（北上）講習内容：クライミング技術の習得、支点構築、遭難対策等

・初冬期冬山講習会兼指導員研修会　：12 月 7 日（土）8 日（日）：三ツ石山
講習内容：冬山生活技術、読図、冬山遭難対策等

・冬山講習会兼指導員研修会　：2 月 8 日（土）9 日（日）：岩手山　講習内容：山スキー技術、読図、遭難対策等

・一般登山者レベルの講習会の実施

・山岳・スポーツクライミング指導者の養成

・日山協指導委員会と連携し新技術の研究。

・指導員会との連携を図り指導員の資質向上、若手指導員の養成に努める。指導員会主催のインドア研修、県外合宿等を通じて登山技術の向上と安全登山の啓発に努める。各種資格更新の周知。

・山岳遭難事故防止活動

・日山協遭難対策委員会と連携し、常に新しい遭難対策技術の研究に努める。

・各講習会兼研修会において、読図、ロープワーク、レスキュー技術（遭難対策技術）の講習を取り入れ、指導に努める。

・県主催の岩手山周辺の警察、山岳救助隊及び岩手県、関係市町村担当者による遭難対策に関する情報交換、事故防止啓発、火山防災について意見交換に努める。

・ＳＣ審判員、セッターの育成と資格更新

・ＳＣ審判員、ルートセッターの育成。
・審判員、ルートセッター資格更新研修会の開催。資格更新の手続き。2020 年２月１日（土）
・夏山リーダー養成講習会を開催し、一般登山者の技術向上、遭難事故防止に努める。(前期) 9 月 7 日（土）8 日（日）（後期）9 月 28 日（土）29 日（日）
・県営運動公園スポーツクライミング認定会の開催
・県スポーツ振興事業団と連携し、県営運動公園スポーツクライミング認定会の開催。4 月 27 日（土）、7 月 13 日（土）、10 月 26 日（土）
・(一社)岩手県山岳協会指導マニュアルの改訂
指導マニュアルを参照し、講習会、指導員研修会を開催し、その都度改定を図る。

ウ　競技運営事業

・スポーツクライミング・アジア選手権大会開催準備、運営に万全を期するとともに県民体育大会兼国体山岳競技選手選考会への参加促進を図る。
・Sport Climbing JapanTour 第２戦（リード・スピード）の開催　6 月 22 日（土）～23 日（日）
・各種スポーツクライミング大会開催
スポーツクライミングいわてカップ 2019(兼国体選手選考会)　4 月 13 日（土）～14 日（日）
・第 62 回県民体育大会兼国体選手選考会
6 月 15 日（土）～16 日（日）
・第２回岩手県ボルダリング＆スピード大会
11 月２日（土）～３日（日）

エ　登山普及事業

・岩手山八合目避難小屋適正管理と環境整備。
・登山者が安全かつ清潔に公園施設を利用できるように管理運営に当たる。今年は、避難小屋屋根改修等も予定されていることから、安全面も含め対応を強化する。
・岩手山八合目避難小屋の切替え作業
・夏小屋への切替え　4 月 27 日（土）～28 日（日）
・冬小屋への切替え 10 月 26 日（土）～27 日（日）
・岩手山八合目避難小屋管理
・常駐期間　6 月 15～16 日　6 月 21 日～10 月 14 日
10 月 19 日～10 月 20 日

令和元年度　岩手山八合目避難小屋管理当番

当　番　月　日	加盟団体名
６月２９日(土)～７月１日(月)	巌鷲山岳会
７月　６日(土)～　７日(日)	都南山岳会
７月１３日(土)～　１４日(日)	翌檜山岳会
７月１４日(日)～　１５日(月)	盛岡市山岳協会
７月２０日(土)～　２１日(日)	福岡山好会
７月２７日(土)～　２８日(日)	盛岡RCC
８月　３日(土)～　４日(日)	滝沢市山岳協会
８月１０日(土)～　１１日(日)	花巻市山岳協会
８月１１日(日)～　１２日(月)	八幡平市山岳協会
８月１７日(土)～　１８日(日)	岩手アルペンローズ山岳会
８月２４日(土)～　２５日(日)	募集中
８月３１日(土)～９月１日(日)	釜石山岳協会
９月　７日(土)～　８日(日)	日本山岳会岩手支部
９月１４日(土)～　１５日(日)	矢巾山好会
９月１５日(日)～　１６日(月)	早池峰山岳会
９月２１日(土)～　２２日(日)	募集中
９月２２日(日)～　２３日(月)	北上山岳会
９月２８日(土)～　２９日(日)	盛岡山想会
１０月　５日(土)～　６日(日)	巌鷲山岳会
１０月１２日(土)～　１３日(日)	矢巾町山岳協会
１０月１３日(日)～　１４日(月)	JR 盛岡山岳会

・登山記念グッズ販売事業(収益事業)登山者サービスの一環として、手拭い、バッチ等
の登頂記念グッズの販売
・岩手山安全登山啓発及び自然保護パトロール
夏山シーズン期間、岩手山八合目小屋常駐会員を中心に、一般登山者の体調不良、ケガ等のサポートに当たる。岩手山山開き及び国民の祝日山の日に岩手山八合目臨時診療所を開設し、応急対応にあたる。また、道迷い登山者の誘導、消防、警察等への連絡等山岳遭難事故防止に努める。植物生態系の保護のため、岩手山外輪を中心に西洋タンポポ等の外来種駆除をはじめ、ゴミ拾い、標識の点検、登山道の補修等に努める。
岩手山八合目臨時診療所開設
開設期間　7 月 1 日（日）8 月 11 日（日）
・ジュニア育成事業での底辺拡大と登山教室の開催

ジュニア登山教室 in 岩手山 2019
期日：8 月 9 日（金）～8 月 10 日（土）

・岩手山ボッカ大将の実施
：6 月 8 日（土）
・日本の名峰登山の実施

8 月 29 日(木)～9 月 1 日(日)、 山名：雨飾山 1963m 米山 993m

・山の日記念事業の実施
山の日制定記念「みんなでふるさとの山に登ろう」―地域住民との交流登山―
各加盟団体が地域住民との交流登山に助成する。

・山の日記念事業「みんなでふるさとの山に登ろう」
岩手山 8 合目避難小屋薪荷上げ登山を実施する。(6 月 21 日～10 月 14 日)

・第 57 回全日本登山大会　2019 年 9 月 28 日（土）～30 日（月）開催地：岐阜県高山市：御嶽山、西穂独標、乗鞍岳ほか

オ　スポーツクライミング振興事業

東京オリンピック強化選手の重点支援、ボルダリング施設・関連施設整備充実
茨城国体チーム強化、ジュニア育成体制の強化、医科学支援体制の充実を柱に次の事業を実施していく。

・各種大会派遣事業
・ボルダリングユース日本選手権鳥取大会 5/18(土)～19(日)(鳥取県倉吉市)
・スポーツクライミングコンバインドジャパンカップ 5 月 25(土)～26(日)　西条市
・国体リハーサル茨城大会　6/8(土)～6/9(日)茨城県
・スポーツクライミング・ジャパンツァーの開催 6/22（土）～23（日）盛岡
・スポーツクライミング世界選手権大会 8/10(土)～8/21(水)　(八王子市)
・JOC ジュニアオリンピックカップ(L) 9/14(土)～16(月)（富山県南砺市)
・東北総合体育大会山岳競技　7/26(金)～28(日)(福島県二本松市)
・第 74 回国民体育大会スポーツクライミング競技 10/4(金)～10/6(日)(茨城県)
・スポーツクライミングアジア大会 11 月 インドネシア
・リードワールドカップ 10/26(土)～27(日)(印西市)
・スポーツクライミングリード日本選手権大会　3 月

〇選手育成事業
・親子スピード・ボルダリング・リード体験教室 4/20(土).4/21(日).23(火)
・親子クライミングボルダリングスクール 7/6(土).2(日).9(火)
・親子キッズクール 11/2(土).3(日).6(火)

〇選手育成事業
・キッズクライミング教室　(1・2 年対象 10 名 年間 50 日)
・ ジュニアクライミング教室（3～6 年対象　40 名 年間 50 日)
・選抜クライミング教室（小 6～中 3 年 15 名年間 50 日)

・強化チーム練習（中 1～高 3 年 10 名　年間 150 日）
・強化事業
各種大会の実施　(ボルダリング大会×2 回　リード大会　県民体育大会)
県外大会への派遣　(ジャパンカップ、ユース選手権大会、ジュニアオリンピック大会、日本選手権大会、各種民間主催大会）優秀選手の招聘　(ボルダリング選手×年間 5 回　リード選手×年間 2 回)
強化合宿の実施　県外合宿×随時海外合宿×1 回)

カ　高等学校登山専門部の活動概要

(1)　岩手県高等学校総合体育大会登山競技　5 月 31 日(金)～6 月 2 日(日)　裏岩手連峰
(2)　東北高等学校会登山大会　6 月 21 日（金）～6 月 23 日（日）青森県　岩木山
(3)　全国高等学校総合体育大会登山大会　8 月 2 日(金)～8 月 6 日(火) 宮崎県　祖母山系
(4)岩手県高等学校新人登山大会　9 月 27 日（金）～29 日（日）　鯨山
(5)岩手県高等学校クライミング選手権大会　10 月 20 日(日)　岩手県営運動公園

(6)全国高等学校選抜クライミング選手権大会　12 月 21 日(土)～22 日（日）加須市民体育館

※　予算について

項　　目	本年度予算額	前年度予算額
法人関係（事務局）	1,882,000	4,241,248
指導部門	744,000	212,581
競技運営部	1,834,000	2,618,600
登山普及部	5,138,000	8,363,000
収益事業	2.350,000	1,713,000
スポーツクライミング部	10,000,000	8,330,000
合　計	21,948,000	25,478,429

合計の前年度対比での減は、旧岩手県山岳協会から一般社団法人への移行の際、積立金を寄付金扱いとして計上した分が、本年度から平準化されたのが主な要因です。

令和元年度予算内容の概要

○　法人（事務局費）関係

・協会運営のための共通経費で、年々事務量も増え、財政規模も大きくなってきました。加盟団体等との情報共有のため山協ニュースの発行、ホームページの充実に努めるほか、理事会、加盟団体会議、名誉会員、顧問懇談会の開催、各種会議出張経費など 1,882,000 円を計上しています。事務局関係手当についても計上。

○指導関係

・残雪期、岩登り、沢登り、初冬期、冬山の各講習会の開催。夏山リーダーや加盟団体長懇談会で要望のあった初級クラスの楽しい登山講習会も予定しています。更に、全国遭対、レスキュー講習会への派遣旅費も初めて計上。伝達研修の強化を図ります。

○競技運営関係

・ジャパンツアーほか 5 大会の開催経費を計上しています。県民体育大会への一般の出場を募っています。
例年開催の鞍掛山トレランについては、猛暑や大雨糖の気象変動、牧野内走行の家畜防疫の観点から中止することとなりました。

○登山普及関係

ジュニア登山教室、名峰登山、高山植物パトロール、安全登山の啓発を行います。また、加盟団体の協力で岩手山八合目避難小屋管理を行い登山者の利便と安全確保に努めます。住民との山の日記念登山への補助。

○収益事業関係

岩手山八合目避難小屋で岩手山登頂記念グッツとして手拭、バッチ等の販売を行い、安全登山の啓発事業経費等に当てます。

○スポーツクライミング関係

・予算規模で 1,000 万円と協会一般予算の 50%を占めています。大きいのでは、ジュニア世代の養成のための親子クライミング教室、東京合宿、各種国内大会への選手派遣費、今年も海外合宿を予定ており、その成果が待ち望まれます。なお、財源として県補助金 690 万円と参加料を見込んでいます。

伊藤ふたば選手 2019 スピードジャパンカップ 2 位・リードジャパンカップ 9 位

2020 東京オリンピックを一年後に控え、選手選考や日本代表選手選考のデータとなるスピードジャパンカップが 2 月 10 日東京昭島市で開催され、伊藤ふたば選手は、野中生萌選手との決勝となり伊藤選手 9 秒 658、野中選手 9 秒 388 で 0.27 秒差の準優勝。

3 月 2 日（土）と 3 日（日）には、千葉県印西市でジャパンカップリード競技が行われ、準決勝で 9 位となり惜しくも決勝進出にはなりませんでした。本人にとって実力を発揮できずほろ苦い悔しい大会でしたが、これをステップとして頑張って欲しいと思います。

冬山講習会兼指導員研修会

2 月 9 日（土）、岩手山（相の沢コース）で冬山における基本知識及び実践技術を習得し、岳人としての力量と資質の向上を図る。山スキー歩行・滑走技術の習得、読図（ナビゲーション）、寒さ・凍傷対策、セル

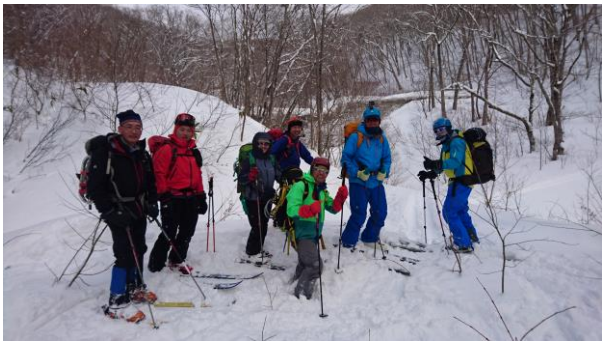
弱層テスト

フレスキュー（雪崩遭難対策）、ラッセル訓練等を目的に冬山講習会が開催されました。

中島隆之指導部副部長を講師に土井祐之、駒込幸夫、及川秀明、及川真紀〔北上〕、韮澤優〔翌檜〕、澤口誠〔日本山岳会岩手支部〕村上友志〔岩手ｱﾙﾍﾟﾝ〕の 8 名が参加。

「観測史上最強の寒波到来」により、前日 8 日（金）は各地域で猛烈な吹雪となり、交通事故も相次いだ。参加を取り止める連絡も頂くなど、実施するか悩んだが、日帰りで天候等の状況を確認ながら、行けるところまで

行くことで実施することにし、参加者に連絡した。当日の朝、気温 - 11℃、風はほとんどなく、時々陽が射す。「観測史上最強の寒波」はどこへ？ 7:20 相の沢駐車場にて開講式を行う。中島講師より本日予定、防寒対策等の説



明をしていただき、 アバランチトランシーバーチェックを行い出発。 雪の量は少なく、ブッシュがうるさい。ひざ下のラッセルだが、体重をかけるとクラスト面が崩 壊し苦労を強いられる。それでも村上、澤口、及川（秀）、韮澤の献身的なラッセルのおかげで、11:00 に雪庇帯上部の森林限界(1500m)に達することができた。風も強くなってきたので、それ以上上部へ行くことはやめ、本日の登行はここまでとする。ここから滑走する斜面について、中島講師の指導の下、ピットチェック（弱層テスト）を行ったところ、雪面から 25cm の層がスコップのブレードを叩く前にずれてしまった。クラストした面の上の雪はほとんど接着しておらず、小さな刺激でずれてしまい、雪崩の危険性は非常に高いと判断。 できるだけ森林帯にルートを取るよう指示した後、皆、思い思いのシュプールを描き、楽しそうに滑走した。澤口、村上の滑りに刺激され思いっきり突っ込んでみたが、スキーの先端が引っ掛かり飛 込前転！それでも上質のパウダーのおかげでケガすることなく雪まみれ！下部の樹林帯は滑走ラインを見定め、立ち木に激突しないよう注意しながらのスラローム。皆、無事に下山した。13:30 閉講式を行い、中島講師から講評をいただき解散。参加者の皆さんお疲れ様でした。報告　指導部長 土井祐之

残雪期講習会兼指導員研修会案内

5 月 18 日（土）と 19 日（日）の二日間、秋田駒ケ岳で残雪期講習会兼指導員研修会が開催されます。

今年から、初級コースを設け残雪期の基礎的な技術をマスターできるよう気軽に参加できるコースも企画しています。また、指導員検定会も兼ねて開催されます。各会の若手会員の受験をお薦めします。

日程は、18 日（土）17 時受付開始、17 時 30 分～開講式、19 日は、6 時出発、7 時～11 時まで実技講習等、13 時 30 分閉会となります。装備は冬山、登攀装備一式。当日は森山荘一泊となり素泊まり 2,650 円、参加料は一般 3000 円。事故に対する責任は、主催者において重大な過失がない限り参加者がその責任を負う。山岳保険に加入していること等が条件となります。

詳しくは、土井祐之指導部長に照会願います。

TEL　090-9535-3476

メール hiroyuki_doi7222001@yahoo.co.jp

名誉会員故矢羽々昭夫氏を悼んで

2 月 5 日、協会名誉会員矢羽々昭夫氏（84 歳）がご逝去されました。矢羽々先生は、30 歳代前半にして、国際親善登山隊**副隊長**としてオーストリアとの友好親善の架け橋となられ、発展期にあった県山岳協会の組織強化を始め本県の国際親善にも大きく、貢献されました。

昭和 39 年には、本県で初めての全国大会となった第 8 回全日本登山体育大会の開催、昭和 45 年の「誠実・明朗・躍進」のスローガンのもとに開催されました岩手国体では登山競技成功に向けて奔走されました。昭和 36 年から山岳協会理事、副理事長、理事長として協会運営にあたられ、平成 5 年から 4 期 8 年にわたり、岩手県山岳協会会長として、協会のかじ取り役の重責を担い、安全登山の普及を始め、国体山岳競技の競技力向上など今日の協会の基盤づくりのためにご尽力頂きました。また運動公園登攀施設の整備など本県の山岳競技の基盤づくりと強化にご尽力いただきました。平成 9 年の**瑞宝双光章の受章、**長年の登山活動を通じてのご功績に対して岩手県体育協会体育功労表彰、日本山岳協会表彰を受賞されました。まさに岩手県山岳協会の発展と組織強化、そして山岳スポーツを通じて多くの人材を育てられ安全登山の啓蒙のために生涯を捧げられました。

故矢羽々昭夫先生のご冥福を心からお祈り申し上げます。

ボルダリングスプリングセッション開催

今年のスポーツクライミングの幕開けとなるボルダリング・スプリングセッションが 3 月 17 日（日）、運動公園ボルダリング施設で開催されました。セッションには、ジュニア部門に 19 名、ビギナーに 17 名、ミドルに 30 名、マスターに 27 名、オープンに 8 名、合計 101 名の選手

がエントリーし熱戦が繰り広げられました。

成績は、次のとおりです。

部門/順位	1	2	3
ジュニア男子	小原舞人 本堂孔介 山本大河		
ジュニア女子	長野一穂	金野葉月	
ビギナー高以下男子	石川爽右介	川村草太朗	佐藤獅道・菊池玄・佐々木音和
ビギナー高以下女子	佐藤凛歩	野辺地凛	木元彩寧
ビギナー一般男子	畠山友宏		
ビギナー一般女子	米倉育子	細川純子	後藤七海
ミドル男子	佐藤俊	熊谷喜彦・畠山和明・島田健・三田龍司	
ミドル高以下男子	中川功輝	菊池春斗	鈴木忠尚
ミドル高以下女子	木元柚寧	千葉珠里亜	及川　陽
マスター一般男子	高畑俊輔	本明智尚	高杉光昭
マスター高下男子	稲邑悠人	田口博翔	本明佳
マスター高下女子	髙橋美音	工藤朝花	大湯　凛
オープン一般男子	三上誉人	中島　治	藤本章晃
オープン高以下男子	大賀羽玖	似内舜明	本明優哉

第 3 回理事・スタッフ合同会議結果

2 月 23 日（土）10 時から(公財)県体協会議室で開催。出席者は、髙橋、吉田、武田、小山、畠山、植田、佐藤、山口、遠藤、小野寺、中島、十二林の各理事等、村上、寺内、藤原、鬼川、長畑、工藤、近藤各スタッフ。会議に先立ち競技運営部スタッフで八幡平市役所公営企業担当で公会計のベテラン、八幡平市山岳協会事務局長の**工藤裕志氏を講師**に法人**会計処理の実務研修を行いました。**

○　会議報告

(1)事務局

・加盟団体会長・事務局長会議　(小野寺事務局長)

・全国理事長会議報告(畠山専務理事)

・山協ホームページのリニューアル(吉田副会長)

・平成 30 年度予算執行状況について　(村上事務局次長)・岩手県営登攀施設整備

(2)競技運営部関係

(3)指導部関係　・冬山講習会実施状況、登山安全マニュアルを加盟団体へ送付。残雪期講習会は経験、技術レベルに応じたクラス分けを徹底して行う。

(4)登山普及部・全国登山情報交換会報告

(5)スポーツクライミング部関係

・ジュニア特別合宿(東京)の実施、・スピードジャパンカップ開催決定報告

(6)その他　日山協報告

○　協議

・平成 31 年度事業方針、平成 31 年度事業計画及び予算(案)について検討

・県営運動公園登攀施設整備計画　内容説明、

・2020 アジア大会について(小山副会長)・リード・スピードジャパンツアー第 2 戦

・(一社)岩手県山岳協会の名称変更の検討について

・パートナー会員制度について

・その他　役員改選規程の説明、国体ルールの変更

日山協審判員・ルートセッター資格更新研修

2 月 2 日（土）盛岡市のタカヤアリーナ会議室で審判員、競技ルートセッターの有資格者の資格更新のため、必要な事項の修得を目的として開催。

内容は、東京オリンピックでスポーツクライミングが競技種目として採択されて以来、

ここ数年で、スポーツクライミングを取り巻く環境は大きく変わった。各地で競技施設がつくられ、競技会も多く開催されるようになった。メディアにも多く取り上げられ、注目を集めている競技種目の一つである。このような状況の中で、競技が面白いものとなるためには、勝ち負けを明確に判断できるようなルートのセッティングや明確なジャッジが必要不可欠。近年、このスポーツクライミングの進化に伴い競技ルールもめまぐるしく変化している。このような変化に対応するためにもルートセッター、審判員の研修が必要となっている。

今回、岩手県８名、福島県と青森県から１名ずつの合計10名の参加で審判員・ルートセッター更新研修会を開催した。来年度からルートセッター、審判員の有資格者は、全員が毎年更新研修会を受講しなければならない。

今回、B級審判の資格を有する当協会の**寺内宏普指導員**に講師をお願いし資料の読み合わせや実際に選手が登っている動画を見ながらの研修で、大変わかりやすい内容だった。

新たに変更になったルールとしては、スポーツクライミングが「リード競技」「ボルダリング競技」「スピード競技」に「コンバインド競技」を加えて４種目となったこと。ボルダリング種目では、「ボーナス」が「ゾーン」に呼称変更し１課題に一つ設けることになったこと。

さらに、選手への平等性を確保できる場合は、競技前にルートや課題は見ても構わないこと等である。今まで長時間アイソレーションルームに待機を強いられることのないよう選手の負担軽減として、大きな改革です。本県では、昨年はコンバインドジャパンカップを運営し、今年もリード・スピードジャパンツァーを開催するにあたり、ルートセッター・審判員だけでなく、協会内で共有する必要があると感じた。今回、講義だけでなく、ジャッジにおける様々な疑問等を、議論しながら進められ大変有意義な研修会でした。報告　指導部長　土井祐之

第５回理事会報告

平成31年３月13日（水）第５回定時理事会が県体協会議室で開催され髙橋会長、菅原、吉田、武田、小山の各副会長、植田、佐藤(誠)、小野寺、遠藤、土井、山口、中島の各理事、遠藤監事、盛合監事の14名出席、欠席者は畠山専務理事、村上、佐藤(幸)、千葉(真)、十二林、新田の各理事の6名､高橋会長は挨拶で今日の理事会は、来年度の事業計画、予算を決める会議となっている。当協会の名称変更についても、協議しなければならない。

２年後には、協会創立80年周年を迎える。

時代の変化にも対応して進まなければならない。パートナー会員制度の導入等最近の登山界を取り巻く状況に的確に対応していく必要がある。日山協加盟岳連で補助金の不正経理問題が発生し正会員除名、関係者の指導員資格はく奪等の事案が発生している。組織のガバナンスやコンプライアンスの徹底が求められている。日山協として加盟団体の法人化を強く指導しなければならない段階になった、当協会は、昨年５月１日から法人移行している。今後しっかりした法人として発展していくため組織の強化充実が一層求められる。

スポーツクライミングの五輪種目化や大衆登山の浸透等これまでにないスピードで環境が変わっている。単に流されることなく、守るべきは守り変えるべきは変えて適時適切に勇気をもって対応していく必要がある。皆さんの協力をお願いしたい。

5　協議結果

(1)　第１回臨時理事会議事録の承認について

小野寺事務局長から説明があり、報告通り承認した。

(2)（一社）岩手県山岳協会平成31年度事業計画(案)について小野寺事務局長長から説明があり、行事日程表の一部修正を行い全会一致で提案通り決定した。

(3)（一社）岩手県山岳協会平成31年度収支予算（案）及び資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類について小野寺事務局長長から説明の後、審議に入り全会一致で原案の通り決定した。

(4)（一社）岩手県山岳協会の定款変更について、定款第１条の名称について「一般社団法人岩手県山岳協会」を「一般社団法人岩手県山岳・スポーツクライミング協会」に改称について協議した。変更理由として岩手県山岳協会は、登山と山岳スポーツ及びスポーツクライミングを活動の柱として活動している。

上部団体である（公社）日本山岳・スポーツクライミング協会は、平成17年６月１日より名称変更を行ったこと。国民体育大会と県民体育大会が本年度から山岳競技がスポーツクライミング競技と名称変更したこと。

2020東京オリンピックでスポーツクライミング競技が追加種目として決定し、スポーツクライミングに対する国民、県民の関心の高まってきていること。

更に2024パリオリンピックにおいても開催都市推薦種目に予定されていること。また、当協会は伝統的に山岳岩手として国体、インターハイ登山競技において、立派な成績を残してきている。岩手県の配慮で全国有数のスポーツクライミング施設整備が進んでいること。ジュニア層を中心のスポーツクライミングの愛好者が増えていること。等、登山の普及と併せ、スポーツクライミングの普及発展期ためスポーツクライミング統括団体として県民に広く周知を図るとともに名実ともに登山とスポーツクライミングの両輪での協会の発展を期する必要があ

ることから名称変更の必要性が説明された。

協議の結果、出席理事全会一致で名称変更を決議し定時総会の議題とすることになりました。

(4) (一社) 岩手県山岳協会平成31年度定時総会開催について

小野寺事務局長長から説明があり、令和元年5月18日(土)13時30分からサンセール盛岡での開催を決定した。予定議案は、平成30年度一般社団法人岩手県山岳協会事業報告について、平成30年度一般社団法人岩手県山岳協会収支決算報告について、一般社団法人岩手県山岳協会の名称変更に関する定款の一部改正について、役員改選について、を議題とすることを決定した。

(5) 任期満了に伴う理事候補推薦委員会委員の委嘱について協会理事候補選考委員会規程に基づく薦委員会委員の委嘱について、6名に委嘱することを決定した。

(6) (一社) 岩手県山岳協会パートナー会員規程について協会の持続的発展のためには協会活動に対して応援団なパートナーとして活動してくれる会員の募集を行うこと。将来パートナー会員が加盟団体に加入していただく機会となってくれるよう巾を広げていきたい。旨の説明。

本制度については、加盟団体長会議に説明し、理解を頂く前提で施行することとする。会費については3000円に、会員のメリットについて明記することとした。

(8) (一社) 岩手県山岳協会会計処理規程の一部改正について、協会事業の迅速な執行のため、各担当部長に対して予算執行の権限を20万円未満まで付与するため会計処理規程を改正した。

(前払金及び概算払い) 別表第1 (第21 条関係)

区分	会長	専務理事	事務局長	**担当部長**
支出の承認	50 万円以上	20万円以上50万円未満	20 万円未満	**20万円未満**

別表第 2 (第 25 条関係)

区分	会長	専務理事	事務局長	**担当部長**
取得、譲渡、除却、貸与、担保の設定等の承認	50 万円以上	20 万円以上 50 万円未満	20万円未満	**20万円未満**

附 則 この規程は,平成31年3月13日から施行する。

(9) 加盟団体会長、名誉会員・顧問・事務局長会議

・日時 4月20日 13時00分から15時00分

・場所 サンセール盛岡

・説明事項 令和元年度事業計画、収支予算の説明・定款変更について

・県営ボルダリング施設整備について、スポークライミングアジア大会について

・夏山リーダー制度について・山の日記念事業

(10) 登山普及部提出の令和元年度山小屋管理当番について提案の通り決定。

(11) 令和元年度残雪期講習会兼指導員研修会開催

指導員研修に係る参加料については、収支バランスを取って決めること。前提無料はなしとすること。

5月18日(土)と19日(日)

6 報告事項

(1)会員の退会について

設立時会員とし法人設立の必要から個人会員登録していた高橋時夫、吉田春彦、小山勝稔から退会届が提出された旨報告があった。

(2) 日山協報告について

高橋会長から、日山協は、事業内容、予算規模、役員体制等大きく変革の時を迎えている。スポーツクライミング関連大会が目白押しとなっている。国体ルールの IFSC ルールへの改正、夏山リーダー制度の導入が進んでいる。山の日啓発事業予算は、削減。予算規模が 6 億円規模となったが、90%近くがスポーツクライミング関係。加盟団体の法人化推進が強く示されたが、一部団体からは規模的に無理との発言があった。

次年度役員候補については、スポーツクライミング関係及び女性理事の登用が目立ってきている。

岩手県としては、登山もスポーツクライミングについても引き続き主体性を持った取り組みを進めていく必要性が強調された。

(3) スポーツクライミング・ジャパンツァーについて

2020 スポーツクライミングアジア大会日程決まる。

2月15日 (金) 東京品川プリンスホテルで IFSC-ACC アジア評議会が開催されました。会議には、県工藤啓一郎スポーツ文化部総括課長が開催地歓迎スピーチを英語で行い参加各国から拍手を頂きました。粒來幸次主査、当協会の高橋会長も同席し、会場地プレゼンテーションを行いました。席上、2020 スポーツクライミングアジア選手権盛岡大会の日程が決まりました。開催期間は、4月27日～5月3日までの7日間です。ちょうど桜の咲くころで多くの観客の来場が見込まれる等盛り上がりが期待されます。

今年の鳥取大会の規模では、参加14か国、選手は男子68人、女子49人の117人となっています。オリンピック最終選考会でもあり多くの出場が期待されます。

主な経過報告と予定 1月19日臨時理事会以降

・1/19(土)　岩手県山岳協会第1回臨時理事会 盛岡
・1/19(土)　岩手県山岳協会名誉会員、顧問懇談会
　加盟団体会長・事務局長会議　盛岡
・1/19(土)　岩手県山岳協会新春懇談会　盛岡
・1/22(火)　日山協1月臨時常務理事会　東京
・1/26(土)-27(日) ボルダリングジャパンカップ
・1/31(木)　山協ニュース208号発行
・2/7 (木)　日山協2月常務理事会　東京
・2/8 (金)　協会名誉会員故矢羽々昭夫氏葬儀
・2/9(土)　県山協冬山講習会兼指導員研修会
　岩手山相の沢コース
・2/9(土)-10(日)　東北高体連顧問研修会　八甲田山
・2/10(日)　スピードジャパンカップ(東京　昭島市)
・2/17(日)　日山協加盟団体理事長会議　東京
・2/23(土)　県山協第3回理事・スタッフ合同会議
・2/23(土)　法人会計システム研修会(第2回)
・3/2(土)-3日(日)　リードジャパンカップ　印西市
・3.2　日山協理事会　東京
・3.11 アジア大会準備会議　県庁
・3/13(水)　県山協第5回理事会　盛岡
・3.15 スポーツクライミングアジア評議会　東京
・3.20 ボルダリング施設協議
・3.21 スプリングセッション　盛岡
・3.28 アジア大会準備会議　市役所

今後の予定

・4.10 県山協理事・スタッフ会議　盛岡
・4.11　日山協4月常務理事会　東京
・4.13-14　スポーツクライミングいわてカップ2019
　兼国体選手選考会　盛岡
・4.20　加盟団体会長、事務局長会議　盛岡
・4.20 県山協指導員総会　盛岡
・4.27　スポーツクライミング認定会
・4.27-28 岩手山八合目避難小屋冬山小屋から夏山
　小屋への切替　岩手山
・4.24　(一社)岩手県山岳協会監査　盛岡
・5.1　新天皇即位　元号　令和へ改元
・5.8　第1回理事会　盛岡
・5.18　(一社)岩手県山岳協会定時総会・理事会
・6.16　(公社)日本山岳・スポーツ医クライミング協
　会定時総会　東京

JMSCA　Sport Climbing Japan Tour　2019

主催：公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会(JMSCA)

リードクライミング
　2019年6月22日(日)「岩手県営運動公園大会」
スピードクライミング
　2019年6月23日(日)　「岩手県営運動公園大会」

各大会の競技方法は基本的にはIFSCルールに順ずる内容である。

日山協山岳保険に入ろう

多くの山岳保険がありますが、日山協の山岳保険は、登山ばかりではなく、日常生活でのケガも対象になります。ボルダリングやリード壁等でのロープを使用したクライミングもピクニックコースで比較的負担の少ない掛金での加入ができる等の利点もあります。万一の賠償責任保険も加味されています。更に、加入者数によって山岳協会への還付金等もあり、万一に備えての加入をお奨めします。詳しくは日山協ホームページ又は県山岳協会事務局へ。

応援しています。

岩手の山岳・スポーツクライミング

いわて電力
IWATE ELECTRIC POWER

編集担当から

山協ニュースの発行準備をしていると元号の発表が耳に入った。5月1日からは「令和」万葉集からとのこと。SNSやAIのニュースが飛び交う中、ほっとする落ち着きと我が国の歴史の重みを感じる。

登山界も、太古の時代から変わらぬ自然、カラフルで機能的な装備や服装が登山スタイルを変え、畏敬の念を抱いて慎重に頂をめざしてきたのが、生涯スポーツとしてレジャー化が進む。スマホで登山届を出し、山頂から写メールを送る時代。街の公園では、人工壁に挑む子供達。垂直志向の動作は変わらない。三点支持で確実な歩みは何時の時代も変わらない。